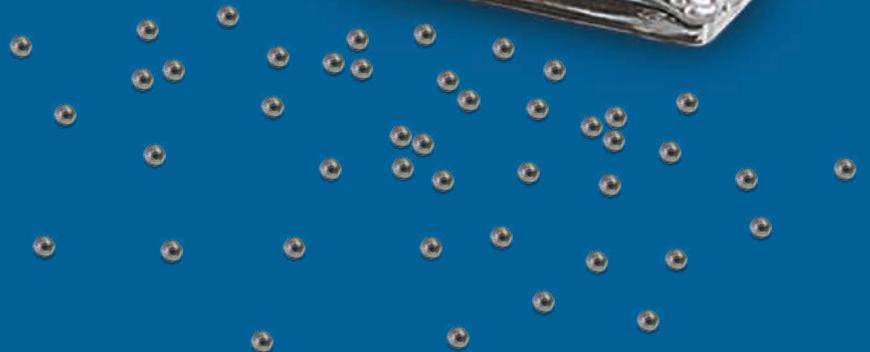

森下仁丹 活動報告書

2021



Contents

仁丹の思想	02	社会ルールの遵守と貢献	
ステークホルダー・行動憲章	04	Well-being 一人ひとりが輝ける組織へ	22
森下仁丹のいま	05	健康経営 従業員と家族の健康	23
社長メッセージ	06	社会への奉仕、社会とのつながり	25
社是	07	森下仁丹の技術と研究	
歴史	08	「仁丹」を礎とした技術と研究	27
活動報告		医薬品	28
SDGs取り組み方針	11	シームレスカプセル	30
健康への奉仕と技術革新		機能性素材	32
腸内環境改善による健康づくりの提案	13	コーポレートガバナンス	
海外展開	15	コーポレートガバナンス	35
シームレスカプセルの活用と発展	16	コーポレートデータ	36
未来へつなぐ研究と活動	17		
ものづくりの責任と環境への配慮			
「人」「物」「地球」やさしさをカタチに	19		

編集方針

「森下仁丹 活動報告書2021」は、株主・投資家をはじめとしたすべてのステークホルダーの皆さまに対し、当社の企業価値向上に向けた取り組みについて、より一層の理解を深めていただくことを目的に、会社の全体像や研究開発、活動報告、ESG情報について掲載しています。本レポートに未掲載の財務情報などについては、当社コーポレートサイトをご覧ください。

<https://www.jintan.co.jp/corp/ir/>

本レポートの内容は、2021年4月1日～2022年3月31日の活動をまとめたものです。一部対象期間外の活動も含まれます。

(発行:2022年9月)

注意事項

本レポートに掲載されている当社の業務内容、経営方針、経営計画などのうち、歴史的事実でないものは将来の見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。それらは様々なリスクや不確定要素により影響を受けることがあり、将来実際に公表される業績等とは異なる場合があることにご留意ください。

本レポートは、当社関連の最新情報をステークホルダーの皆さまにお伝えするために公開しています。報道関係者や株主・投資家の皆さまへの情報提供を目的としたものであり、プロモーションや広告、医学的なアドバイス等を目的とするものではありません。

「思いやりの塊＝仁丹」が紡ぐ 私たちの想い

私たちの使命は、皆さまの健康のお役に立てる様々な製品を通じて
『思いやりの塊』をお届けすること——。

森下仁丹の原点は、製品名であり、社名にもなっている「仁丹」にあります。
「仁丹」には、儒教の教えの中心で最高の徳である『思いやり、優しさ』を表す「仁」と、
良薬や丸薬を表す「丹」という文字が使われています。

この言葉が意味する本質を胸に、お客さまや社会のニーズをいち早く感じ取り、常に挑戦し続けること。
様々な課題へ果敢にチャレンジし、新しい製品やサービスをご提供し続けること。

そのたゆみない取り組みこそが、今に至る当社の成長と同時に、
働く従業員のやりがいや社会貢献へとつながっています。



「仁丹」の由来

「仁丹」という名前は、「仁義礼智信」の五常首字であり、儒教の中心、且つ最高の徳で、
中国では文字の王とされる「仁」と、台湾で「丸薬」を意味する「丹」を組み合わせたもの。
これに「通天閣」の名づけ親である漢学者 藤沢南岳ふじさわ なんがくと、朝日新聞の論説委員であった
西村天囚にしむら てんしゅうからのアドバイスを受け、「じんたん」という読みを振ることとした。

不変の価値観「仁丹」を支える3要素

当社における「仁丹」の想いは、「さいせいりみん濟世利民」「ほうほんはんし報本反始」「予防医学」という3つの要素から成り立っています。「社会への奉仕」から始まった当社の取り組みは、時代が移り変わろうとも、その想いを変化させるのではなく、より深く見詰め、問い直し、踏み固め、今に受け継いできました。私たちは、これらの3要素を知識として理解するのではなく、日々の仕事や生活において実践していくよう心がけています。その姿勢こそが、ものを正しく見て判断する心を養い、ひいては当社の成長につながると信じています。

思いやりの塊＝仁丹

濟世利民 世の中の人々の命や生活を救い、役に立つこと



濟世利民とは、世の中の人々の命や生活を救い、役に立つこと。現代でいう「SDGs」や「ESG」に通じる考え方ですが、当社は創業時から濟世利民の精神と発想で事業を展開しており、すべての事業における根幹となる不滅のスローガンです。

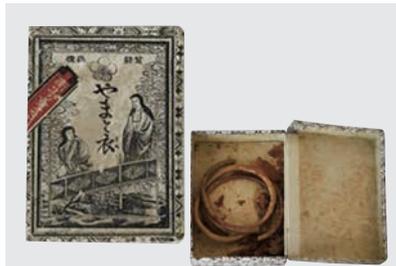
森下南陽堂の森下博と幹部店員（明治時代）

報本反始 天地や祖先の恩に報いること



報本反始とは、もともと中国の書物・礼記の言葉で、謙虚な心を忘れてはいけないといった考え方を示した言葉です。天地・祖先の恩と功績に感謝し、自分自身が存在するに至った根源のすべてに報いようとする信条を表しています。

予防医学 病気は予防するものであるという考え



やまと衣

明治時代に性感染症 梅毒の予防器具として「きぬやまと衣」を発売。また、大正時代には、体温計の普及によって、国民大衆の保健医療に寄与できると考え、「仁丹体温計」の販売に尽力しました。「病気は予防するもの」という予防医学の考えを日本で発信し、さらにはセルフメディケーションの浸透に努めるなど、世の中に役立つものをいち早く取り入れ、様々な社会課題の解決に貢献する姿勢は今も変わらず継承されています。

世界中の人々へ健康を届ける「保健の外交官」

当社の象徴「たいれいふく大礼服マーク」。業祖 森下博が「仁丹」を広く世界の人々の健康のために役立てたいと考え、「仁丹」に健康や保健を世界に運ぶ外交官の姿を重ね合わせ、数百回におよぶ改作と修正を経て完成しました。大礼服の帽子をかぶり、カイゼル髭をたくわえ、謹厳で凛々しい中にも親しみのある表情のマークは全国津々浦々に浸透し、さらには世界各国に広がって「保健の外交官」という役割を果たしました。大礼服マークは時代時代に合わせた細かい変更が加えられ、現在も当社のシンボルとして愛されています。



国内向けの商標 国外向けの商標

明治38年 仁丹発売当時の商標

森下仁丹を支えるステークホルダー

私たちは会社を構成している従業員とその家族、お取引先さま、お客さま、地域・社会の皆さま、株主といった、ステークホルダーへの責任を明確にし、様々なコミュニケーション活動を実施することで社会課題を認識し、その解決に向けた施策に取り組んでいます。



森下仁丹 企業行動憲章

森下仁丹グループは、明治26年の創業以来の精神である「体と心のあり方を考え、人間が自ら持つ健康の力を引き出し、さらに高めること」を使命として社会に貢献し続けてまいります。

1

顧客指向を基本に事業活動を展開します

私たちは、優れた技術と高い品質をもって人々の健康づくりに貢献できることを最大の目的としたグローバルな企業を目指し、製商品およびサービスを開発し提供してまいります。

2

社会的なルールを守ります

私たちは、事業活動の展開に際し、諸法規、国際的な取り決めおよび社内規程を遵守するとともに、常に社会規範に沿った公明正大な行動を行います。

3

人権・個人を尊重します

私たちは、人権を尊重し、差別を行いません。
また、私たちは、相互に個人を尊重し、職場においては常に平等な機会を与えられ公正な処遇を受けることができます。

4

正確な情報を伝えます

私たちは、事業活動の情報を適切に管理するとともに、利害関係者を含め社会一般から正しく理解を得ると同時に透明性を確保するため、正確な情報を適時公開します。

5

地球環境に配慮します

私たちは、地球環境を保全するため、事業活動のあらゆる面をとらえて環境保護につとめてまいります。

一人でも多くの人に、仁丹の「思いやり」をお届けしたい

人に、暮らしに、街に、「思いやり」と「優しさ」をお届けするために、お客さま一人ひとりの想いにしっかり寄り添い、きちんとお応えする。それは120年以上ずっと変わらない、森下仁丹のスタイルです。

祖業から培った技術力で 新たな価値を創造



その「思いやりの塊」は、サステナブルな未来へ

小さな生薬の塊「仁丹」の製造・販売から始まった当社は、製丸技術や生薬研究で蓄積してきた知見をベースに、幅広い分野で「思いやり」の製品をお届けしてまいりました。

人々の生命や生活を救い、人々の役に立つ。
そんな明日を目指し続けて129年。
そして、次の世代へ。

私たちは市場創造型の研究・開発を推進し、
素材・製品・サービスを提供することで
持続可能な社会づくりに貢献し続けてまいります。



「仁丹」を通じて 社会課題の解決に取り組み、 持続的に成長できる 強い企業を目指して

代表取締役社長 森下 博司



平素より、弊社製品をご愛顧賜りまして、誠に有り難うございます。わが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響をうけるなかで、一進一退の動きが続いております。

当社では、感染症の予防対策を徹底しながら、研究開発、製品販売を継続し、積極的に営業活動を実施いたしました。それにより、2021年度は「ビフィーナ®」や当社独自の機能性素材であるローズヒップの素材販売、カプセルの受託販売を中心に収益をあげてまいりました。

特にローズヒップの素材販売については、長年当社が取り組んでまいりました研究の成果をより多くの皆さまの健康にお役立ていただきたいとの想いから積極的な素材販売をおこない、結果、多くの製品にご採用いただきました。サラシアやカシスについても各素材の長所をご理解いただき、製品に採用いただけるよう研究開発および営業活動を展開したいと考えております。またこうした機能性素材の提供によって皆さまの健康に寄与してまいりたいと考えております。

高い技術力と豊富な知見を活かして 新たな価値の創造へ

「仁丹」の製丸技術をルーツとするシームレスカプセルを活用した、カプセル受託事業では、過去に報道などもございました通り、2008年から産業用カプセルの研究を進めてまいりました。その研究成果としまして、2022年3月、ロレアルリサーチ&イノベーションセンターとの共同開発により「アクティブデリバリーカプセル」を実用化いたしました。さらに医療用医薬品へのシームレスカプセルの活用を進めるべく、製剤研究および医薬品開発にも積極的に取り組んでまいりました。2022年2月にはEPA・DHA製剤のジェネリック医薬品の製造販売承認を取得いたしました。1970年代から始まったカプセル研究は、今やカプセル受託事業として、当社事業の重要な柱となっております。引き続き、シームレスカプセルのオープンイノベーションを展開し、従前の食品・医薬品ならびに産業用

途へと拡大した事業領域でさらなるビジネス展開を目指してまいります。

多様な人財の力でイノベーションを実現

業祖 森下博が掲げた「濟世利民」の信念を受け継ぎ、皆さまの健康に奉仕すべく、当社ならではの素材研究やシームレスカプセル技術、また顧客満足に資する高付加価値製品の開発は必須であり、研究開発体制の充実が必須であると考えます。さらに製造販売業という業種ならびに通信販売・小売店向販売、かつ受託事業をもつ性格上、各部門では専門知識を有する人財の育成が必要です。これまで以上の教育、研修の充実に加え、ダイバーシティの推進等により人財育成に注力してまいります。また、従業員の安全・健康を最優先に考えつつ、当社独自の技術・知見を駆使し、製品・サービスが永続的に供給できるよう事業継続活動に取り組んでまいります。

事業を通じて環境・社会課題の解決に挑む

SDGsに関してはこれまでに重要項目を整理し、環境・社会の諸課題に対して、テーマごとに取り組んでまいりました。2021年度は、オープンイノベーションによる産業用カプセルの実用化、産学連携による学生アスリートの腸内環境改善サポートへの取り組みを開始いたしました。また、社内では、新入社員研修プログラムに栄養・健康教育の導入など、健康経営の推進を積極的におこなっております。引き続き、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

今後につきまして、エネルギー、素材、食料等の価格高騰や新たな感染症登場の可能性など不確実性の高い状況が続くと考えております。このような環境のなか、変化にスピーディに対応しながら、素材研究やシームレスカプセル技術で新たな価値創造を生み出し、人々の健康に奉仕する製品や技術を提供してまいりたいと思います。



原料の精選を生命とし、優良品の製造販売
進みては、外貨の獲得を実現し、
広告による薫化益世を使命とする

創業者 森下 博 が掲げた基本方針(社是)



企業感を支える創業者の思想

創業にあたって、森下博は事業の基本方針としてこの言葉を掲げました。
厳選された良質な素材で、優れた製品を提供し、地球的視野に立ったグローバルなフィールドで事業を展開し、
生活者の心に響くより良い方法で人々に製品やサービスをお届けする。
この考えは130年近く経った今に受け継がれています。

創業者 **森下 博** (1869(明治2年)-1943(昭和18年))

森下仁丹の歩み

森下仁丹は1893年の創業以来、人々の健康や豊かな暮らしの一助になることを願い、事業に取り組んでまいりました。その歩みは、時代のニーズに応えるためにこれまでになかった製品やサービスを開発し続けてきた歴史でもあります。

1893年 明治26年



森下博、薬種商「森下南陽堂」を大阪市東区淡路町(現・中央区)に創業

森下南陽堂創業当時の森下博(1893年(明治26年)、25歳)

1900年 明治33年



当時、猛威を振るっていた梅毒の新薬として、「毒滅」を発売。さらに「毒滅」に先立ち、フランスからルーデサックを輸入。性病予防器具「やまと衣」として発売し、「**病気は予防するものである**」という考えを実践

大阪朝日新聞に掲載された「毒滅」の広告(1905年(明治38年))

1905年 明治38年



「仁丹」発売当時の一粒出しケース(1905年(明治38年))

「仁丹」(赤大粒)発売。風邪や食あたりといった病気でも命を落とす人が少なくなかった当時、台湾に出征した森下博が、現地で見たと丸薬のように万病に効果があって飲みやすく、携帯・保存に便利な薬をと開発

1914年 大正3年



金言小話集(1930年(昭和5年))

広告は商売の柱であると同時に広く社会に役立つものでなくてはならないという「**広告益世**」の理念のもと「金言広告」の新聞連載を開始。厳選した古今東西の格言を新聞広告や電柱広告、看板、紙容器等に入れる

1922年 大正11年

十分な治療を受けられるのは依然として一部の富裕層に限られていたため、**国民大衆の保健医療に寄与**すべく「仁丹の体温計」と「仁丹ハミガキ」を発売



「仁丹平型体温計」(1926年(大正15年)頃、30銭)



「仁丹ハミガキ」(1925年(大正14年)頃、12銭)

1926年 大正15年



健康保険組合設立。ヘルスケア事業の先駆けとして、製品提供に留まらず、**従業員の健康へも目を向け事業活動を推進**

従業員は家族であるという「家族主義」の考えのもと女性従業員とその家族を招待して社内行事も開催されていた(1920年(大正9年))

1929年 昭和4年



銀粒「仁丹」発売(1929年(昭和4年))

昭和初期、世界的に経済が深刻な恐慌に見舞われる。その影響を受け仁丹の販売戦略を見直すなか、**銀粒の「仁丹」が誕生**。大正末から昭和にかけて人々の購買動機となっていた口中清涼剤としての役割を求められたことに応えた

1970年 昭和45年



昭和45年から発売されたメディケア商品(ベビーおむつ、ベビーライナー、清浄綿、フレッシュマスク)

二代目社長 森下泰が西ドイツ(当時)で出会った「**セルフメディケーション(自己治療)**」の考えに基づき、自己治療分野製品の開発に着手。「清浄綿」や「粘着包帯」、「滅菌パッド」等を発売し、セルフメディケーションの浸透をはかる

1971年 昭和46年



マイクロカプセルの口中清涼剤
「クリスタルデュウ」
(1980年(昭和55年))

液剤のもつ長所と携帯に便利でどこでも簡単に飲める仁丹の長所を掛け合わせ、「液体の仁丹をつくれないうか」という森下泰の発想から**カプセル開発がはじまる。後に、マイクロカプセルの開発に成功**(1980年に製品化)

1984年 昭和59年



「消費者の声に耳を傾けそれを活かすには、積極的に女性の発想や着想を活用すべきである」との考えから、**女性社員のみで構成されたプロジェクトチーム「ウーマンラボ」発足**。デオドライザー製品などを開発

ウーマンラボのアイデアから生まれた商品群

1986年 昭和61年



親水性マイクロカプセルを採用した「カプセル仁丹」(1992年(平成4年))

それまで親油性液体にのみ対応していたマイクロカプセルについて、**親水性物質のカプセル化に成功**。さらに開発・改良を加え、1992年(平成4年)に製品化

1993年 平成5年



「ビフィーナ10」
(1993年(平成5年))

ビフィズス生菌腸溶性カプセル「ビフィーナ10」発売。**微生物のカプセル化成功**により、微生物の機能を最適なタイミングと場所で最大限に活かすことが可能に



1995年 平成7年

社会問題化しつつあった「生活習慣病」の解決に、長年培ってきた植物由来成分の知見を活かすべく研究を開始。サラシアやローズヒップのもつ機能に着目。後に**ローズヒップ由来ティロロサイドによる体脂肪を減らす機能の発見**に至る



ローズヒップ

サラシア

1998年 平成10年

シームレスカプセル技術を活用した医療用医薬品「ソルミラン(EPA製剤)」製造承認取得

2015年 平成27年

機能性表示食品制度開始。「ビフィーナ®」や「ローズヒップ」「サラシア」など機能性をもつ食品を「ヘルスエイド®」シリーズとして展開



「ヘルスエイド® ビフィーナ®」



「ヘルスエイド® ローズヒップ」



「ヘルスエイド® サラシア」

2019年 平成31年/令和元年

「健康経営優良法人」に初認定

2021年 令和3年

2008年から進めてきた産業用カプセルの研究の成果として、ロレアルリサーチ&イノベーションセンターとの共同開発による**「アクティブデリバリーカプセル」を実用化**



アクティブデリバリーカプセル

ロレアル社のアクティブデリバリーカプセルが使用された美容液



2023年 令和5年

創業130周年を迎える

活動報告

- SDGs取り組み方針
- 健康への奉仕と技術革新
- ものづくりの責任と環境への配慮
- 社会ルールの遵守と貢献

森下仁丹のSDGs取り組み方針

私たちが大切にしている「思いやりの塊」は、持続可能な社会への貢献そのものです。森下仁丹は人々の健康や豊かな暮らしの一助となる製品を提供し続けるとともに、社会課題解決にも取り組んでいます。

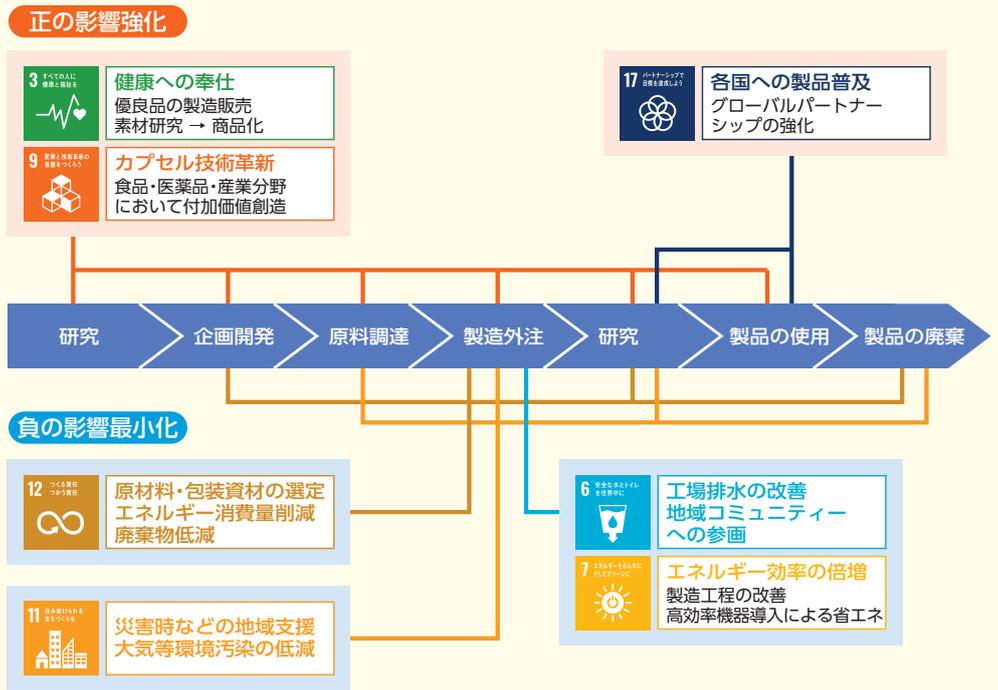
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは 持続可能な開発目標のこと。2015年に国連で採択され、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットからなります。国、政府機関、企業などすべての関係者に行動が求められます。

事業を通じて積極的に取り組む

持続可能な社会に向けた森下仁丹のバリューチェーン
当社はバリューチェーンマッピングにより、正の影響の強化と負の影響の最小化、それぞれに与える可能性が高い領域を特定し、注目すべき課題への取り組みを強化してまいります。



森下仁丹の重点項目

健康に役立つ素材・製品を提供するヘルスケア事業、及び顧客志向で技術革新を目指すカプセル受託事業を両軸とし、地球環境保全の責任を担う生産部門、それら活動を下支えする管理部門など、関連会社を含む全従業員が一丸となって目標となるゴールを目指してまいります。

モノづくりの責任と環境への配慮

- CO₂排出量削減・省エネ
- 有害物質管理
- 廃棄物低減
- 資源管理

森下仁丹 健康への奉仕 技術革新

社会ルールの順守と貢献

- 従業員及び家族の健康
- 従業員とのつながり
- 健康奉仕
- 社会とのつながり

健康への奉仕と技術革新

腸内環境改善による健康づくりの提案

人々のセルフケアを取り巻く環境は、大きく変わりつつあります。当社は「腸内フローラ」と健康とのかかわりあいに早くから着目し、腸内環境改善による健康づくりを提唱し続けてきました。今後も腸内環境改善を軸とした包括的な製品・サービスの提供を目指します。

太陽化学株式会社と共同で、 摂南大学ラグビー部選手の腸内環境改善をサポート

近年、腸内細菌がヒトの健康に様々な影響を与えることが明らかになりつつあり、アスリートの腸内細菌叢にも注目が集まっています。一部のアスリートを対象とした試験では、一般の方に比べてアスリートの腸内細菌叢は多様性が高いことが示されています。しかしながら、学生アスリートは体づくりに大事なタンパク質や炭水化物を積極的に摂取する一方、良好な腸内環境の維持に重要な食物繊維等の栄養素を含む野菜類が不足する傾向にあります。さらにトップアスリートと違い、学生アスリートの栄養については十分なサポートが行き届きにくいといった課題があります。

こうした状況から、当社と太陽化学から各社の食物繊維等の機能性食品を提供。摂南大学ラグビー部選手1名が摂取した結果、摂取前には検出できなかった善玉菌が増え、便通の改善等、腸内環境をはじめ、いくつか体調の変化が見られました。

この結果を受け、当社と太陽化学は摂南大学ラグビー部選手に対し、今後も継続して同様の機能性食品を提供することといたしました。当社は機能性食品の提供を通じて、学生アスリートのさらなるパフォーマンスの向上につながるよう、腸活の支援をおこないたいと考えています。



森下仁丹

Smart and Human
摂南大学太陽化学株式会社
TAIYO KAGAKU

遅延崩壊型カプセルの崩壊部位に関する新たな知見を発表

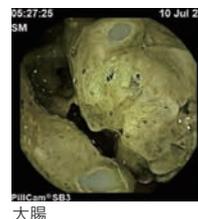
日本医科大学 千葉北総病院 消化器内科 藤森俊二教授との共同研究において、当社独自のシームレスカプセル技術を用いた遅延崩壊型カプセルの崩壊部位に関する新たな知見を、2021年2月に開催された「第14回日本カプセル内視鏡学会学術集会」のシンポジウム「カプセル内視鏡の進歩と未来」で発表いたしました。遅延崩壊型カプセルは、当社の独自技術であるシームレスカプセルの皮膜構造に優位性を持たせた新製剤で、現在、製品機能のさらなる向上を目指して研究をおこなっています。

本研究では、シームレスカプセル技術を用いた新製剤および対照製剤をそれぞれ試験参加者10名に投与し、カプセル内視鏡で胃・小腸上部・小腸中部・小腸下部・大腸それぞれの部位における崩壊率を確認。両製剤共に胃での崩壊挙動に差はありませんでしたが、小腸での崩壊挙動(崩壊率)に有意な差が認められ、対照製剤に比べ新製剤は、小腸において崩壊しにくいことを確認することができました。さらに、この新製剤は、10名中7名でカプセルが原形を留めたまま、残りの3名においても一部を留めた状態で大腸まで到達していることを

確認することができました。

今回の試験ではカプセル内視鏡を用いたことにより、シームレスカプセルの腸管内での崩壊の様子を画像として撮影することにも成功。カプセル内視鏡は、製剤の崩壊挙動を確認するための侵襲性が少ない方法のひとつとして使用できる可能性があります。

シームレスカプセルの消化管内崩壊挙動画像



短鎖脂肪酸(酢酸)を内包した大腸送達性製剤による 便秘改善および食後血糖値上昇抑制作用を確認

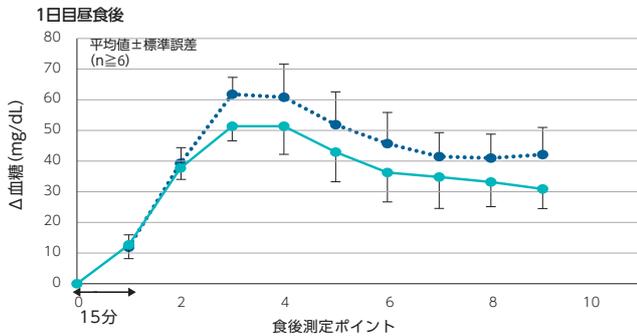
便秘改善について

腸内細菌の代謝物のひとつである短鎖脂肪酸(酢酸)には、腸内環境改善作用、コレステロール合成抑制作用、ミネラルの吸収促進作用等、宿主に対し有益な生理機能があることが報告されています。本研究では、短鎖脂肪酸カプセル(1日5粒、酢酸約17mg、大腸送達性製剤)またはプラセボカプセルを被験者に2週間摂取していただき、その有用性を評価。便秘傾向者において、排便回数の有意な増加が認められました。また、便臭が弱いと回答した被験者が多く見られ、さらに便がバナナ状に近づくことが確認されたことから、便性状の改善も期待ができると考えられます。当社では引き続き、短鎖脂肪酸を内包した大腸送達性製剤についてのさらなる研究を進めてまいります。

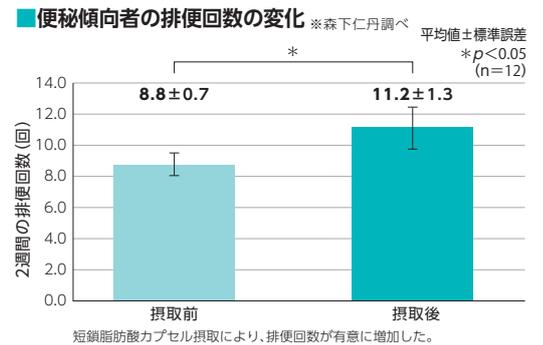
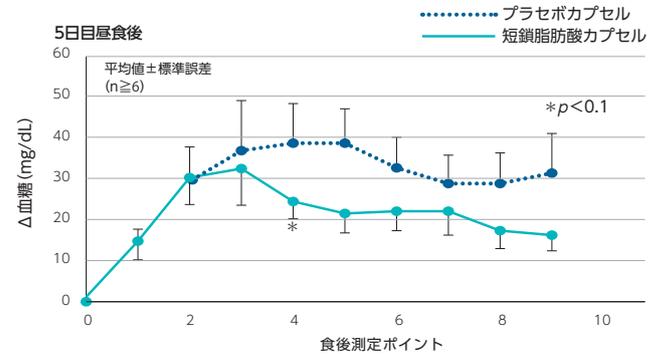
食後血糖値について

短鎖脂肪酸カプセル(1日5粒、酢酸約17mg)またはプラセボカプセルを摂取させ、摂取1日目および5日目の昼食後の食後血糖値を測定したところ、プラセボカプセル摂取時と比較して、短鎖脂肪酸カプセル摂取時の食後血糖値は低い値を示すことが確認されました。

短鎖脂肪酸カプセル摂取による食後血糖値の上昇抑制作用 ※森下仁丹調べ



プラセボカプセル摂取時と比較して、短鎖脂肪酸カプセル摂取時の食後血糖値が低くなる傾向がみられたことから、大腸に直接、短鎖脂肪酸を届けることで、食後血糖値の上昇抑制作用を有する可能性が示唆された。

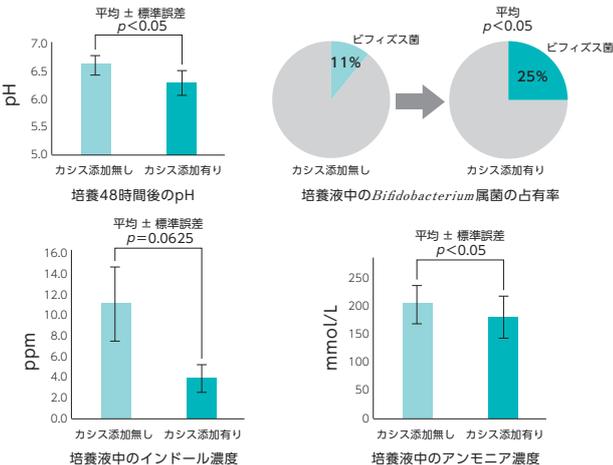


短鎖脂肪酸カプセル摂取により、排便回数が有意に増加した。

カシスエキス摂取による腸内フローラの改善と 腸内腐敗産物の産生抑制

(腸内細菌培養モデルを使用した研究)

岐阜大学との共同研究により、当社の機能性素材としても取り扱っているカシスエキスの摂取による腸内細菌叢(腸内フローラ)の改善と腸内腐敗産物の産生抑制が期待されています。当社では、引き続きカシスエキス等がもたらす有益な効果について研究をおこなってまいります。



新製品「プレバランス®」発売

アカシア食物繊維とフラクトオリゴ糖と一緒に摂れるサプリメント「プレバランス®」を2021年10月に発売しました。「プレバランス®」には水溶性食物繊維の一種「アカシア食物繊維」と、体内で糖として吸収されない糖質として話題の「フラクトオリゴ糖」が含まれています。水やコーヒーなどにさっと溶かして飲むだけで2つの素材を簡単に補うことができる顆粒タイプのサプリメントです。



Voice

「今までにない新しい観点で、皆さまの健康を考えた製品です」

食物繊維は「第6の栄養素」といわれる大切な栄養素でありながら、日本では食事摂取基準の目安量に対して足りない方が多い栄養素です。「プレバランス」は、アカシア食物繊維とフラクトオリゴ糖をバランスよく配合し、「腸内細菌にエサを補給する」という、これまでになかった新しい観点で開発した製品です。健康や食生活に気をつけている方にぜひ試していただきたいです。

ヘルスケア事業本部 プロダクトマーケティング部 **丸山 晃嗣**

海外展開

現地ニーズを踏まえた「ビフィーナ®」の製造販売

現在、世界的な健康志向の高まりや環境課題への取り組みとして、人と環境の健康に貢献する製品や製品開発が求められています。その先駆けとして、当社では国内事業で培った「ビフィーナ®」ブランドを国や地域にあわせて進化させ、成長著しいアジアを中心に展開しています。

アジアを中心として「ビフィーナ®」の販売を展開

健康意識が特に高い中国市場における需要にも応えるべく2020年、現地企業とパートナーシップを締結し、「ビフィーナ®」シリーズの販売を展開。中国の方々のおなかの健康に貢献しています。引き続き、中国のプロバイオティクス製品消費量の大部分を占める17省での販売を中心としながら、シェア拡大を目指してまいります。また、ベトナム、フィリピン、シンガポール等で海外展開し、各エリアの人々の健康に寄り添ってまいりました。フィリピンとベトナムでは、あかちゃん向け「ビフィーナ®」、台湾では子ども向け「ビフィーナ®」を販売。ラクトフェリン入りの「ビフィーナ®」を台湾、香港エリアにて限定販売する等、現地の健康課題を踏まえた「ビフィーナ®」シリーズを展開しています。今後は、各エリアのニーズにあわせて製品を進化させ、成長著しい海外事業を展開してまいります。



中国医薬品業界トップグループ
国控星鯨 (SINOPHARM XINGSHA) とパートナーシップ締結



中国で販売中の「ビフィーナ®」



自社プロバイオティクスを内包する「シームレスカプセル」においてハラール認証を取得

世界のムスリム人口が2030年に22億人に達すると予測されており、ハラールマーケットの急速な拡大が見込まれています。当社はビフィズス菌や乳酸菌等のプロバイオティクスを内包する継ぎ目のないカプセル「シームレスカプセル」を対象に、特定非営利活動法人 日本アジアハラール協会のハラール認証を取得。文化や習慣の異なる多様なお客さまへの安心安全な製品の提供を目指してまいります。



シームレスカプセルの活用と発展

当社が開発したシームレスカプセル技術は、近年、医薬品のみならず、食品や化粧品等幅広い産業分野にも展開しつつあります。今後も様々なご要望に応えるため、従来の基盤カプセル技術を更新するだけでなく、新たな用途に対する研究及び開発を続けてまいります。

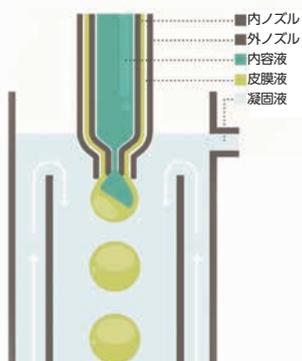


オープンイノベーション

当社は、ロレアルリサーチ&イノベーションセンターとの共同研究により、植物由来の化粧品有用成分を皮膜に用いたロレアル初のシームレスカプセル「アクティブデリバリーカプセル」の開発に成功いたしました。このカプセルを用いた製品は、2021年秋に中国で、2022年春に日本でロレアルグループより発売されています。

今回開発した「アクティブデリバリーカプセル」は、皮膜に植物由来の化粧品有用成分を高濃度に含んだカプセルで、当社のシームレスカプセル技術により、ビタミンE、ビタミンC誘導体、フェルラ酸などの化粧品有用成分を配合した液体の内包物を、酸化や変質などから長

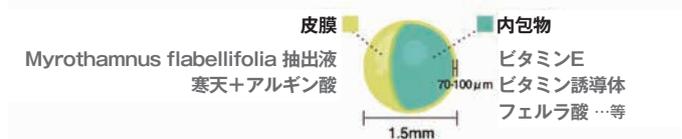
シームレスカプセル作成装置(断面図)



期に亘り安定的に守ります。

カプセルの皮膜の厚みを70~100 μ mと、限界まで薄くする技術により、内包物の安定性を保ちながらも、化粧品使用時には違和感を残さず肌になじみやすい使用感を実現することが可能となりました。当社は今後も引き続き、ロレアルリサーチ&イノベーションセンターとカプセル技術の共同研究を進めてまいります。

アクティブデリバリーカプセルについて(模式図)



L'ORÉAL

ロレアルグループについて

世界有数のビューティーカンパニーであるロレアルは、マス市場、百貨店、調剤薬局・ドラッグストア、ヘアサロン、トラベルリテール、ブランドリテール、Eコマースなど、あらゆる流通ネットワークでビジネスを展開しています。研究とイノベーション、そして世界中に4,000人の研究者を擁するリサーチ&イノベーションは、ロレアルの戦略の中核であり、世界中の美への熱望を叶えるために活動しています。

シームレスカプセルを活用したジェネリック医薬品

本格的な高齢化社会を迎え、国民医療費の増大が予想される中で、低価格なジェネリック医薬品は国民の医療費負担の軽減につながると期待されています。また、同じ有効性・安全性の新薬に、服用しやすい味や大きさ・形等の工夫が加えられることもジェネリック医薬品の大きな役割です。

当社ではシームレスカプセルを活用したジェネリック医薬品の製剤研究に取り組んでおります。病と闘いながら日々薬を服用される方の負担や不安が少しでも軽くなるように、服用しやすい製剤の提供という形で役立ちたいと考えております。今後も製剤研究を進めてまいります。



未来へつなぐ 研究と活動

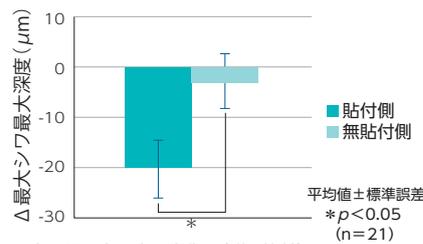
生薬研究の蓄積と育成、そしてシームレスカプセルという独自技術の確立。これからも当社は、ヘルスケア事業・カプセル受託事業を擁する強みを活かした新たな製品やサービスを通して、皆さまの心と身体の健康と、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上に貢献すべく、力を尽くしてまいります。



油性パックシートによる乾燥小ジワの改善効果を確認

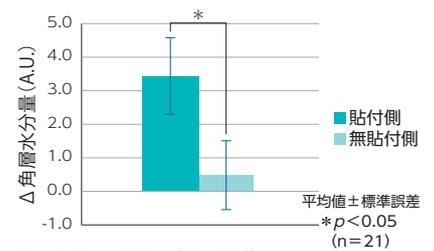
本研究では、目尻に小ジワがある成人女性21名に対し、毎晩スキンケアをおこなった後、左右いずれかの目尻にパックシートを翌朝まで6週間毎日貼付し、左右の目尻の小ジワの目視評価(シワグレード判定)、機器評価(シワ面積率、最大シワ深度、最大シワ平均深度、総シワ平均深度、角層水分量)を実施しました。その結果、パックシートを貼付した側において、使用前後でシワグレードが有意に減少することが認められました。また、パックシート貼付側は無貼付側と比べて最大シワ最大深度が有意に浅くなること確認されました。さらに、角層水分量の変化量においても、群間で有意差が認められました。この研究成果を用いて、油性パックシート製品において抗シワ訴求を追加し、さらなる販売促進を図ってまいります。

■抗シワ機能評価試験の結果 ※森下仁丹調べ



最大シワ最大深度の変化量(群間比較)

最大シワ最大深度の変化量を比較すると、パックシート貼付側で有意にシワ深度が浅くなっていることが確認された。



角層水分量の変化量(群間比較)

角層の水分量の変化量を比較すると、パックシート貼付側は無貼付側よりも有意に水分量が多くなることが確認された。

「BabyD®」を軸としたビタミンDの啓発活動

骨形成に大切な栄養素「ビタミンD」は、日光を浴びることで体内生成されることから「太陽のビタミン」とも呼ばれています。しかし近年はコロナ禍における外出自粛の影響で、日光を浴びる機会が少なくなっているともいわれています。当社は、2014年に生後1ヵ月からビタミ

ンDを摂ることができる日本初の液状サプリメント「BabyD®」(栄養機能食品)を発売して以来、母子におけるビタミンDの重要性の啓発に取り組んできました。今後もその大切さを広く知っていただけるよう啓発活動に取り組んでまいります。

ビタミンDをテーマとした取り組み



都営三田線優先席エリアに車内広告を掲出して「ビタミンD」の大切さを啓発



「BabyD®」が「食と健康アワード2021」で優秀賞・需要深耕賞を受賞



子育てママ向けに小児科医から学ぶオンライン座談会を実施



中国で開催された展示会の日本健康食品大賞特設ブースにて「BabyD®」を展示

ものづくりの責任と環境への配慮

「人」「物」「地球」 やさしさをカタチに

お客さまをはじめ、お取引先さまや従業員の満足と信頼を獲得するためには、安全で高品質な製品を提供することはもちろん、環境への配慮を視野に入れた品質管理が必要です。当社は環境に配慮した製品・技術・サービス・企業活動を通じて、社会に必要とされ、持続的に成長できる企業を目指します。



環境への配慮

製品の製造において、地球環境への配慮が必要不可欠である現代。当社では工場設備やシステムを見直すほか、資材や就業環境についても改善を図ってまいりました。今後も環境保全のための取り組みを継続してまいります。

環境・低炭素社会づくり

～滋賀工場にコージェネレーションシステムを導入～

「コージェネレーション」はクリーン燃料である天然ガスを用い、タービンで発電をおこなうと同時に排熱を温水等に変換して利用する高効率発電システムです。

従来の火力型の発電は排熱や送配電ロス等でエネルギー利用効率40%弱なのに比べ、「コージェネレーション」は排熱利用の結果80%近くまでエネルギー利用効率を高めることができます。

また、災害に強く、停電が生じても運用可能なことから、電源を確保できる安全・安心な避難場所としても地域住民の方に活用していただけるよう、滋賀工場が所在する多賀町と災害発生時の避難場所として協定を締結しました。



環境配慮資材の利用

～製品パッケージにFSC認証を取得した紙資材を使用～

当社の主力製品である「ヘルスイド® ビフィーナ®」シリーズのパッケージに、FSC認証(*)を取得した紙資材を採用し、順次切り替えを進めております。また、2020年11月に発売した「ヘルスシールド®」においても、パッケージにFSC認証を取得した紙資材を採用しました。当社は今後も、環境配慮資材の利用を促進してまいります。

*FSC認証＝動植物が生きる環境や住民の生活環境等を守りながら、適切に管理された森林から生まれた木材・製品を消費者に届け、それにより経済的利益を生産者に還元する仕組み。認証された管理体制で取り扱っている木材・製品に認証マークが付与される。



本社屋照明の全LED化

環境保全の観点から当社では室内照明のLED化に取り組んでおります。2018年の滋賀工場に引き続き、2020年に本社屋照明の全LED化を実施いたしました。LED化を実施したことにより、本社屋の消費電力は約25%削減されました。大規模な対策をきっかけに継続して節電を呼びかけ、従業員一人ひとりが環境保全のために努力できることを意識づけられるような社内の風土醸成に取り組んでいます。



森下仁丹のつくり手としての責任

単に製品を製造して販売することで、つくり手としての責任が完結することはありません。製品の製造環境への厳しい管理体制はもちろん、製品がお客さまのお手元に届いた後のフォローや新たな価値創造のためにパートナーとなるお取引先さまとの信頼関係等、つくり手としての責任のもと、事業に取り組んでいます。

■ 製品

GMPを基本としたミスの無い生産体制を構築

医薬品やサプリメント、食品を製造する大阪テクノセンターおよび滋賀工場では、GMPに適合した製造環境の整備や衛生の確保に重点をおいているため、ここで製造される製品は、高い水準で製造管理や品質管理をおこなっています。さらに食品の品質管理についても、GMPに準じて医薬品と同様に薬剤師を含む専門スタッフがしっかり管理。使用原材料の試験や製造したカプセルの品質試験・検査も「日本薬局方」等、公定法試験をはじめ規定された方法に従って実施しています。



■ お客さま

お客さまに信頼と満足、感動をお届けします

1993年より健康食品の通信販売事業を展開してきた当社は、事業開始時から十数年間、自社内にてコンタクトセンター(コールセンター)を運営してまいりました。コンタクトセンターは現在、100%子会社の森下仁丹ヘルスコミュニケーションズとして「日本一ありがとうがあふれるコンタクトセンター」をスローガンに、お客さまとの窓口となり製品をご案内しております。自社内においてはお客様相談室や仁丹薬局を設け、薬剤師・管理栄養士・栄養士等のプロスタッフを配置し、お客さまのご質問、ご相談に対してもサポートしております。



■ お取引先さま

新しい価値共創のパートナーとしての信頼関係を

お取引先さまは当社の研究開発から生まれた技術や製品に対し、ともに価値を生み出すパートナーです。信頼関係に基づいた適切な関係を保つべく、工場の品質管理、製造管理の体制を確認する監査への対応はもちろん、医薬品医療機器等法や食品衛生法など法令を遵守した取り組みを徹底しております。また、当社製品を販売して下さるお取引先さまについては、製品知識をより一層深いものにしていただくための製品説明会を実施する等細やかに対応しております。



■ 従業員

全従業員で品質管理、法令順守に取り組む

当社では生産部門や品質保証部門だけに留まらず、全従業員を対象として、GMP社内勉強会や医薬品医療機器等法の法令順守に関連した教育訓練を実施しております。また、知財や情報セキュリティなど従事する業務に応じ、テーマごとの社内研修も開催しております。あらゆるステークホルダーの皆さまに安心して当社の製品・サービスをご利用いただけるよう、全社一丸となって取り組んでおります。



社会ルールの遵守と貢献

Well-being (ウェルビーイング)

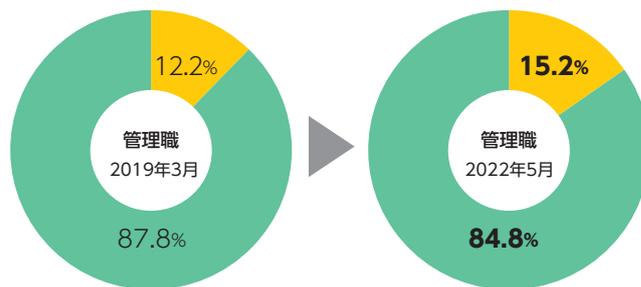
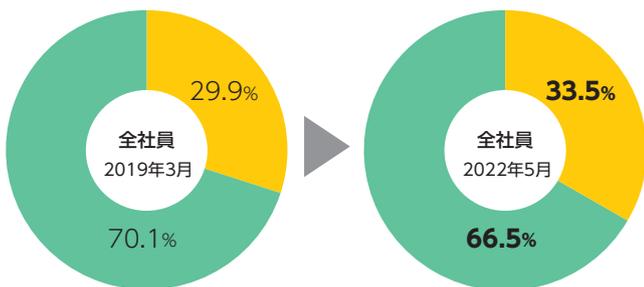
一人ひとりが輝ける組織へ

創業間もない頃から女性従業員の積極採用や多様な人財の活用・育成によって成長を続けてきた当社には、互いを認め合い「個」の良さを引き出すことのできる、環境、風土、各種制度が整っています。女性活躍そしてダイバーシティを強力に推進し、新たな価値の創出を目指します。



■ 男女構成比 (全体・管理職) 2022年5月31日現在

■ 男性 ■ 女性



原点は「家族主義」

当社は創業時より「家族主義」を掲げ、従業員は家族と同様であるとの概念をもっていました。大正時代には女性従業員の積極的な雇用や工場内に学校を設け教科書を支給し教育の機会を提供したり、従業員とその家族を招待して社内行事を開催するなどしてきました。約40年前には、「消費者の声に耳を傾け意見を商品に落とし込むには積極的に女性の発想や着想を活用するべきだ」という考えに基づき、女性13名で結成された商品開発チーム「ウーマンラボ」が発足。環境清涼剤「暮らしのデオドライザーシリーズ」(1984年発売)等の製品が誕生しています。

ワークライフバランスを実現するための制度

当社では、従業員の子育てと仕事の両立を図るため、時短勤務(子が小学4年生開始期まで最短で実労働6時間の勤務が可能)、在宅勤務、看護休暇(子ひとりにつき年間5日:最大10日)、3歳未満の育児中の所定外労働時間の制限や免除といった様々な制度を用意し、時代の変化や社会の現状、そして従業員のニーズに柔軟に対応してきました。子育て支援以外には、生理休暇、傷病休暇のほか、介護休暇や介護休業制度、介護のための時短勤務と時間外労働の制限といった介護との両立を図る制度も拡充しています。また、過去の失効した有給を積み立て、長期療養時に活用できる「失効年休制度」も独自に設けております。各々が置かれている状況や労働環境に合う制度を整備することによって、従業員のキャリアプランを維持し一人ひとりのワークライフバランスにつなげていきます。

子育てとの両立

当社の出産・育児と仕事の両立における制度は1994年に制定され、2002年に初の産休育休取得者が誕生し、現在に至るまで希望する従業員全員が休暇を取得しています。2021年度的女性従業員における産休育休取得率および取得者の復職率は100%であり、2013年度から9期連続100%の実績となっています。社内に活躍する女性のロールモデルが多くいることで、子育てへの理解が浸透しており周囲に気軽に相談ができる雰囲気があるのも当社の魅力のひとつです。今年度からは全社で「男性の育休取得」を推進しています。従業員の誰もが子育てと仕事の両立にチャレンジできるよう、さらなる制度拡充と社内環境の整備を進めていきます。

人財育成

当社では、各々の職業能力の再開発と自己啓発を促すための「資格検定試験受験料および通信教育受講料補助制度」や「オンライン英会話利用補助制度」があり、資格検定試験の受験および通信教育の受講の推奨と共に受験料・受講料の補助をおこなっています。従業員の挑戦を後押ししリスクキリングを促すことは、実践の場での成果を引き出すだけでなくモチベーションと働きがいへとつながります。ほかにも、新卒採用者で入社3年目までの従業員を対象としたメンター・メンティー制度、中途入社者対象の定期的な面談等、入社者へのサポートも充実。入社年次を問わない全社一斉の人事面談も実施し、フォローアップ体制を設けています。今後も多種多様な人財育成の取り組みをおこなってまいります。

健康経営 従業員と家族の健康

健康経営が経営戦略のひとつに位置づけられる現代。ヘルスケア事業に携わる私たちが、自らの健康やウェルビーイングの実現のために行動することこそ、社会の人々の健康につながると考え、一丸となって健康増進・疾病予防に取り組んでいます。



森下仁丹グループは、従業員及び家族の健康を重要な経営課題と捉え、グループ一丸となって、健康増進・疾病予防に取り組むことを宣言します。

更に健康経営を実践することで

- 1 健康産業に従事する企業グループとして、お客様から信頼され、必要とされる企業を目指します。
- 2 従業員一人ひとりが、健全で生き活きと仕事に取り組み、従業員の家族も含めて、充実した健康な人生が実現できるようサポートします。
- 3 全社的な環境整備に取り組み、労働災害の削減はもとより、安全で快適な職場環境の形成に努めます。

健康課題とKPI

従業員の健康課題には性差があり、それぞれにKPIを設定しております。

1 男性従業員は適正体重の維持と禁煙に努め、生活習慣病の予防を

2 女性従業員はがん検診を忘れず、がんの早期発見と早期治療を

健康経営優良法人認定

健康経営優良法人として4年連続であり、大規模法人部門では2022年初めて認定されました。



健康課題 KP1-1

KPI		2016年度実績	2020年度実績	2025年度目標
肥満率 BMI ≥ 25	男性従業員	30.8%	27.7%	23.0%
	女性従業員	17.9%	17.3%	15.0%
喫煙率	男性従業員	36.7%	31.4%	25.0%
	女性従業員	9.6%	5.8%	3.0%
身体活動	男性従業員	42.1%	45.0%	50.0%
	女性従業員	32.8%	39.6%	45.0%

また、婦人科がん検診受診の促進、ハイリスク群への受診勧奨の強化、さらに、コミュニケーションの活性化も課題と捉え、対応策に取り組んでおります。詳細は、森下仁丹健康白書2021をご覧ください。

健康課題 KP1-2

婦人科がん検診受診の促進
<ul style="list-style-type: none"> ● 人間ドック・婦人科検診補助金額の見直しの実施(2021年度～) ● 20歳以上35歳未満の子宮頸がん検診の実施(2021年度～) ● 健康教育セミナー(女性の健康)の実施(2021年度～)
受診勧奨の強化
<ul style="list-style-type: none"> ● 対象者への組織的な介入と情報共有と連携の強化の検討 ● 管理職への健康教育と評価指標の検討
コミュニケーションの活性化
<ul style="list-style-type: none"> ● 公認同好会のリスタート(2020年度～) ● 働きがい、エンゲージメント調査実施の検討 ● 従業員応援プロジェクトの検討

健康経営の取り組み

■ 継続的な介入で支援する、“伴走型”健康経営

森下仁丹健康保険組合では、様々な取り組みを検討実施し、従業員とその家族の健康維持増進をサポートしていくことをミッションとしています。健康に対する悩みは常に同じというわけではなく、ライフステージやライフイベントといった状況に応じて変化するものです。よって、従業員の健康課題を経年的に把握するだけでなく、適切なタイミングでのサポートを繰り返し継続することで、意識づけや健康習慣の定着、健康に対する価値観の醸成を促していきたいと考えています。

当社では、特定保健指導を「栄養カウンセリング」という名称で運用しています。管理栄養士に相談することへの心理的ハードルを下げるのと同時に、食事指導を必要とする疾病予備軍のみならず、従業員の誰もが日々の食生活について気軽に相談できる場となっています。また、2021年度には未就学児をもつ従業員を対象として、子どもの食事の悩みを相談できる窓口をテスト導入し、2022年度からの本格稼働を目指します。ほかにも、社会人の早い段階から健康リテラシーを身

につけられるよう、新入社員研修での栄養・健康教育をスタートしたほか、産業医をはじめとする専門家による「健康教育セミナー」は、女性のヘルスケアやメンタルヘルスといった従業員の関心の高いテーマで定期的を開催しています。



衛生委員会では、産業医や衛生委員、健康保険組合とが動きやすい環境について意見を交わす

■ ウォーキングラリー

ウォーキングラリーは、全従業員参加型の10年以上続くイベントです。歩数を競うだけでなく、ウォーキングに取り組む様子をアピールするフォトジェニック賞を設けるなど、毎年新しい企画を検討し変化をつけることで、従業員同士の交流やイベントの活性化を図っています。このウォーキングラリーがきっかけとなって徒歩通勤が定着したり、ウォーキングが日課になったという声も聞かれ、従業員のなかで健康意識が浸透していることがわかります。

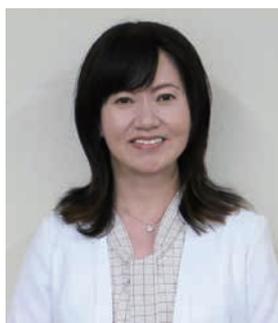


2021年度
ウォーキングラリーの
フォトジェニック賞



ウォーキングラリー上位者の代表へ社長より表彰状を授与

Voice



「健康」はゴールではなく、自己実現のためのツール

森下仁丹健康保険組合 郡司 かおる

健康であり続けるためには、目指す自分を自問自答しながら、食事や運動に対して意識すること、また習慣化することがとても大切だと考えています。「あなたがめざすのは、どんなあなたですか？」これは、従業員の皆さんへ向けたメッセージですが、「健康」はゴールではなくあくまでもひとつの“ツール”だということに気づき、実感してほしいと考えています。森下仁丹健康保険組合では、さまざまな取り組みを検討・実施し、従業員とその家族一人ひとりを応援・サポートしていくことをミッションとしています。動く皆さんの抱えている健康課題の解決に主軸を置き、森下仁丹ならではの風土やカラーに合った活動ができるよう、日々取り組んでまいります。

社会への奉仕、 社会とのつながり

森下博が創業当時から実践していた社会奉仕。その精神は現在の私たちのCSR活動の礎です。様々な活動を通して地域社会へ貢献し、人々とのつながりを育みながら企業の社会的責任を果たしています。



「薬育」を通じたセルフメディケーションの啓発

児童福祉施設等を卒園する児童たちに対しソーシャル・スキル・トレーニングをおこなう社会福祉法人大阪児童福祉事業協会 アフターケア事業部の活動趣旨に賛同し、当社では2013年より「薬育」プログラムを担当しています。施設を出て自立に向けた第一歩を踏み出そうとしている皆さまのセルフメディケーションに役立ててもらえるよう、薬の基礎知識や身体に起こるトラブル対処法の紹介のほか、症状を伝えるロールプレイングや正しい服用を理解するミニ実験といった体験型の演習も盛り込む等、分かりやすく学べるよう工夫しています。毎年、薬剤師免許を保有する従業員と若手従業員が中心となり積極的に取り組んでいます。



ゆかりのある歴史文化資産の保全継承

大阪 四天王寺境内の英霊堂にある天井画「雲龍図」や、くすりの神様と呼ばれる少彦名(すくなひこな)神社の「注連柱しめばしら」、京都の「町名看板」等、森下博が寄進・寄贈した数多くの品々は、一世紀を経た今もなお関西を中心とする地域の人々に愛され続けています。これらは単に当社にゆかりがあるというだけではなく、社会的にも貴重な文化資産となっていることから、有識者を交えたツアーの開催やメディア誘致、大祭行事への協賛やイベント参画、自治体・関連団体との連携、史料のデータベース化や世間への公開といった幅広い活動を通して認知向上と保全に努めています。新人研修での社史教育や社内報を使ったコラム連載等、社内発信にも力を入れており、次世代従業員へ継承しています。



個の社会貢献を会社が応援

当社には地域ボランティアなど、従業員が自発的におこなう社会貢献に対し会社がバックアップをする風土や制度があります。1984年から全社で取り組んでいる献血活動は、献血バスの積極的な誘致に始まり、実施拠点や回数を増やす取り組みをしています。また若手従業員は大阪ローターアクトクラブに参加し、チャリティーバザーを開催するなど在阪企業の同世代のメンバーと連携しながら活動しています。ほかにも従業員の取り組む様々な活動に対し、会社が立ち上げや活動費を支援する「社内同好会制度」を設ける等、私たちは、従業員個人の社会貢献を応援することのできる企業としての在り方も大切にしています。



社会情勢や変化に「寄り添える」支援

新型コロナウイルス感染症の最前線で闘う医療従事者の方々へ何か支援ができないかという社内の声が契機となり、2020年より、大阪府内の医療機関に対しメッセージつき「鼻・のど甜茶飴」計1,500個を寄贈しました。メッセージは、従業員とその家族、地域の皆さまが医療従事者への敬意を込めて一つひとつ手書きしたものを、手作業で貼り付けました。創業時より、1914年(大正3年)東北・北海道の飢饉や1923年(大正12年)の関東大震災等、国内で起きた災害をはじめ国外での震災等、その時々々の社会的困難に対して様々な支援をおこなってきました。自分たちにできることを考え意見を出し合いながら一丸となって取り組める企業文化は、まさに創業者 森下博の「濟世利民」の念が息づいている証でもあります。

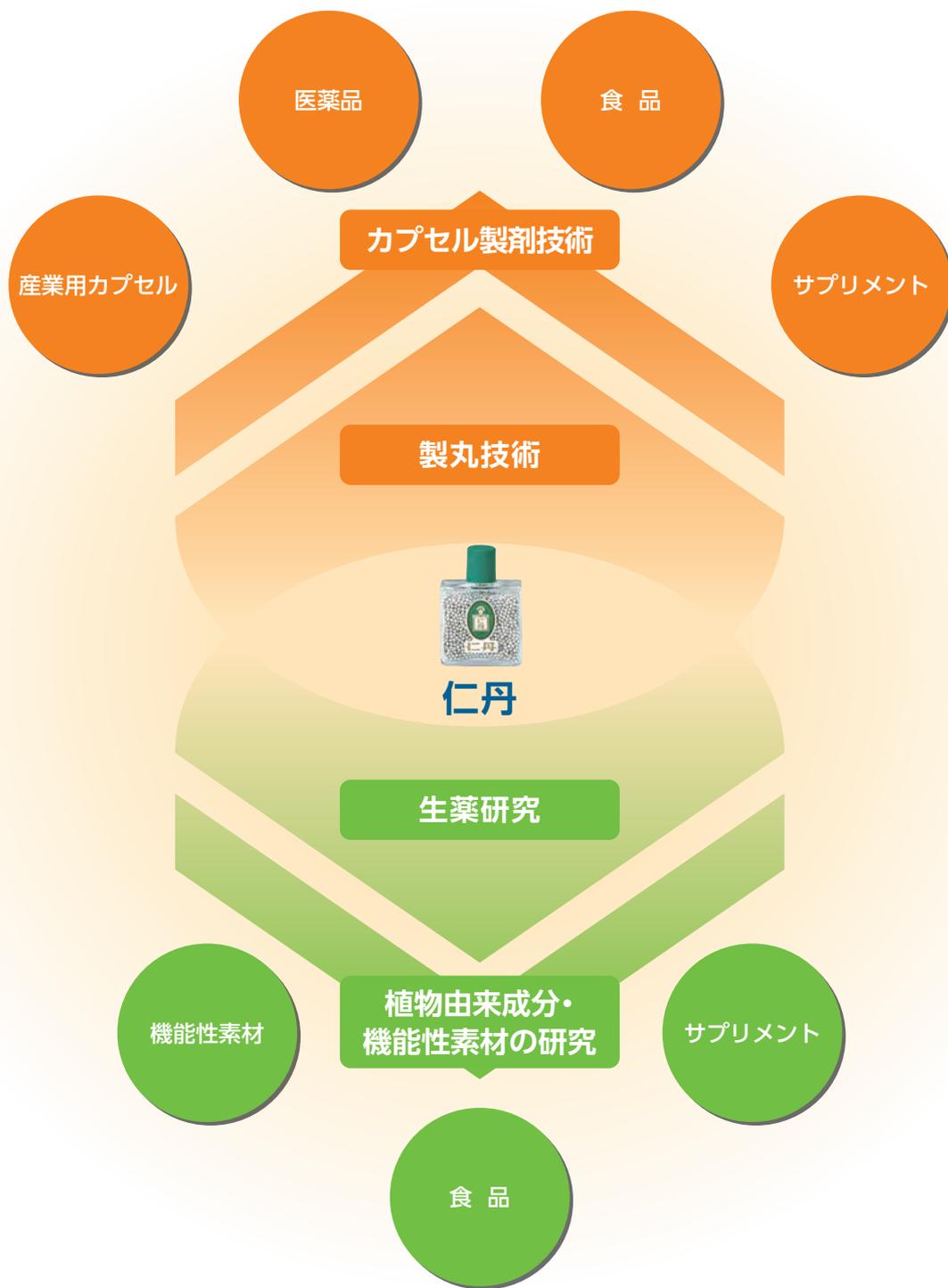
森下仁丹の技術と研究

「仁丹」を礎とした 技術と研究

当社では「濟世利民」の考えのもと「社会への奉仕」を信念とし、創業時より「思いやりの塊＝仁丹」からなる思想を大切にしています。私たちのすべての事業は、この「仁丹」が根幹にあります。「仁丹」を礎に従業員がチャレンジを続けることで初めてお客さまの健康に寄与できる。そう考えています。



「思いやりの塊＝仁丹」から生まれた技術と研究成果をお客さまへ



医薬品

創業以来120年以上に亘って、生活者一人ひとりの健康へ寄り添うことで、「安心」「信頼」の企業ブランド醸成と成長を遂げてきました。当社は、製薬業界を取り巻く環境の変化へ対応するための体制整備と、今後の持続的成長に向けた取り組みをおこなってまいります。



医療用医薬品

「仁丹」の製造から着想を得て、独自に開発し、事業領域を拡大しつつあるシームレスカプセル技術。その技術を医療用医薬品に活用し、ジェネリック医薬品の製造販売をおこなうことで社会課題の解決に邁進してまいります。

■ ジェネリック医薬品

慢性的な病気によって薬を長期間服用する場合等は、ジェネリック医薬品の使用により、薬代の大幅な削減につながります。また、保険料や税金で運営される公的な医療保険から支払われる、自己負担分を除いた薬代も抑えることができ、それに投入される保険料や税金の負担減にもなります。当社は、ジェネリック医薬品の安定的な供給によって、健康保険組合の負担や国の財政負担の削減へ貢献も視野に入れて営業活動を展開してまいります。



EPA・DHA製剤
高脂血症治療薬



5α還元酵素阻害薬
前立腺肥大症治療薬

■ 製剤開発

シームレスカプセル技術を医薬品に活用すべく開始した製剤開発。その第一号として誕生したのが1998年の医療用医薬品「ソルミラン (EPA製剤)」でした。シームレスカプセルを使用することで、ドラッグデリバリーシステム (DDS) の実現を目指すことはもちろん、粒径や皮膜の調整による飲みやすさを追求することで医薬品を服用される方の負担を少しでも減らすことができるよう努めております。現在は医療用医薬品へのシームレスカプセル活用の研究開発を継続しながら、大学や研究機関と連携して経口ワクチンにおける、製剤分野の開発も進めております。

ドラッグデリバリーシステム (DDS) について

薬物の体内での放出を制御することで、効果を最大限に高め、副作用を最小限に抑えることを目的とした技術です。DDSの発展により、薬物の服用回数や量の軽減、副作用を少なくすることが可能になります。薬物を用いた治療において、非常に重要な考え方です。

経口ワクチンについて

中央、南アジアおよびアフリカの国々においては、腸チフスや赤痢、コレラ等の感染症の発生頻度が高く、特に子どもの犠牲が多くなっています。また、これらの地域を訪れる人々には感染予防のためのワクチン注射が主におこなわれていますが、より容易で効果的な投与方法の開発が望まれています。こうした感染症に対して、経口投与が可能なワクチンを提供することを目的とし、当社独自のカプセル技術を有効に利用した方法を開発しております。

メディケア®シリーズ

セルフメディケーションの意識を社会に啓発し、浸透させることが重要との考えから1970年より衛生製品等、自己治療分野製品を開発、販売しました。現在もメディケア®シリーズとして展開しています。

■ OTC医薬品

唇のつらい症状を抑える口唇炎・口角炎治療薬や眉が薄い、細い、短い等に悩む方へまゆ毛、体毛の発毛促進を考えた医薬品、乗り物酔いによるめまい、吐き気に対応した内服液等、身近な体調の変化に対応した製品を提供しています。

OTC医薬品について

OTCとは、「オーバー・ザ・カウンター」の略で、店頭のカウンター越しに医薬品を販売することに由来しています。医師が処方する医療用医薬品とは異なり、薬局・薬店やドラッグストア等で処方せんなしに購入できる医薬品のことです。OTC医薬品を上手に利用することはセルフメディケーションの向上につながりますが、誤った服用方法や副作用によって困ることのないよう、薬剤師や登録販売者が説明した上で販売します。



デンタルピルクリーム



ベレウス



ポード



オノフェフ

■ 医療機器

独自素材「自着性ポリウレタンフォーム」や欧米の医療技術に採用されている吸収力の高い特殊素材を採用した傷あて材、子どものケガに正しく対処したいと願う、お母さんの声から生まれた救急バン等を展開しています。

メディケア®マークに込められた想い

にっこりと微笑むハートと寄り添う笑顔のマークが印象的な傷あて材の「メディケア®」。2008年の傷あて材リニューアル時に誕生したのが、このマークです。家庭での子どものケガに正しく対処したいと願う母親の声をもとに製品を見直しました。家庭での傷ケアを応援するシリーズとして多くの皆さまにご利用いただいています。



ハイドロウェット®α防水



アルゲキュア®



大きめ救急バン



かがせてガード

■ その他

体温計の製造販売の経験から、基礎体温管理の重要性を浸透すべく誕生した、基礎体温表。基礎体温の知識についてのガイドや大学病院の教授が監修する等、医療機関を受診する際に必要な情報がまとまった仕様です。



基礎体温表

シームレスカプセル

「シームレスカプセル」は継ぎ目のないソフトカプセルで、粉末・液体・微生物等あらゆるものを包むことができます。当社はこの「シームレスカプセル」を通じて医薬品・食品・産業用まであらゆる分野へ展開し、広く社会にサービスと価値を提供しています。



■シームレスカプセルの基本性能

- 1 液体を固体に変えることができます
液体のままでは使用しにくいものを、外見上固体にすることで計量性や携帯性を向上することが可能です。
- 2 内包物の保存安定性が大幅に向上します
空气中に放置すると酸化してしまう物質、光や水分により変質する物質等を、カプセルに包むことによって良好な状態に保ち、長時間の保存能力をもたせます。
- 3 内容成分の放出を自由に制御できます
使用目的により皮膚の機能を付与したり、あるいは内容成分の機能を最大限に活かします。
- 4 粒径(大きさ)を均一に調整できます
0.5～8mmまでの間で、カプセルの大きさを自由に、均一に調整できます。

■シームレスカプセルの製法

※シームレスカプセル製法動画URL:<https://jintan.jp/CP>

- 1 カプセル原料の種類や配合を変えることで溶けやすく
カプセルの原料はゼラチンや寒天、デンプン等、「水を加えて加熱するとトロリとした溶液になり、冷やすと固まる」性質をもつ天然物質を使用。カプセルの溶けやすさは、カプセルの皮膜を厚くしたり薄くしたりするだけでなく、原料の種類や配合を変えることで調整しています。
- 2 当社オリジナルの「滴下法」
当社のカプセルは、界面張力の原理を利用した「滴下法」で製造します。二重になったノズルの内側からは内容液、外側からは皮膜液を冷やされた油の中に吐出すると、皮膜液が継ぎ目なく内容液を包み込んだ液滴ができます。
参考URL:<https://www.jintan.co.jp/special/story/>



「滴下法」イメージ

シームレスカプセル採用製品(例)



BtoB事業

アクティブ
デリバリーカプセル技術を
採用した美容液

皮膚に植物由来の化粧品 有用成分を高濃度に含んだ「アクティブデリバリーカプセル」が採用されています。



アルマーニビューティ
クレマネラ RV
コンセントレート
(ロレアル)

ビフィズス菌SP株を
カプセルで生きて腸に届けるヨーグルト

「ビフィズス菌SP株」入りのシームレスカプセルが入ったヨーグルト。特殊な3層構造のカプセルで、「ビフィズス菌SP株」を胃酸から守り、生きたまま腸まで届けます。



恵 megumi
ビフィズス菌
SP株ヨーグルト
(雪印メグミルク)

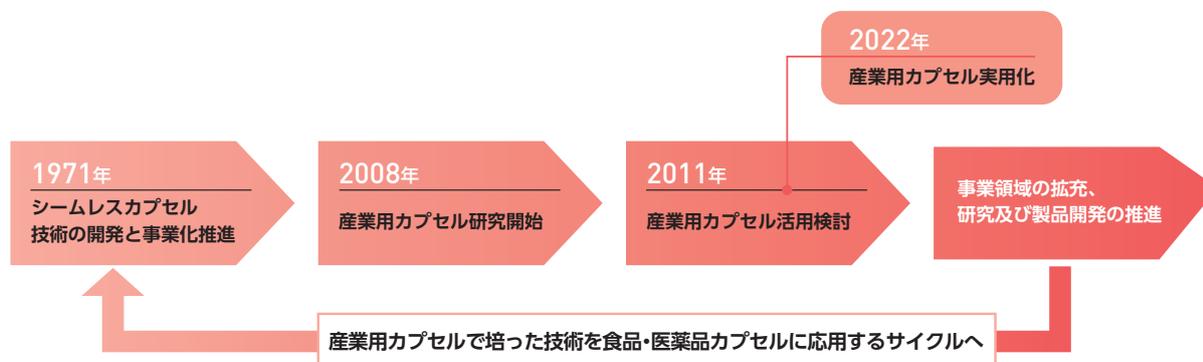


恵 megumi
ビフィズス菌
SP株ヨーグルト
ドリンクタイプ
(雪印メグミルク)

産業用カプセルの探究 —その知見を再び食品用カプセルへ活かす

当社はシームレスカプセル技術を活用した自社製品の販売や、カプセル受託製造サービスのグローバル展開に取り組んできました。その技術は、食品や医薬品への応用のみならず、2021年にはロレアルリサーチ&イノベーションセンターとの共同研究により「アクティブデリバリーカプセル」を開発、化粧品という新たな分野へこれまでのカプセル

技術を展開いたしました。今後、産業用カプセルの研究及び製品開発を拡充・発展させつつ、産業用カプセルで培った技術を再度、食品・医薬品カプセルに応用するサイクルを形成して、社会課題の解決に向けた価値の提供を続けてまいります。



今や日本という枠を飛び越え、世界中でシームレスカプセルが活用されています

当社のシームレスカプセルは国内に留まらず、国外でも活用されています。シームレスカプセルを各地域の社会課題解決に活かせるよう、引き続き、市場創造型の製品開発に努めてまいります。



海を越えてシームレスカプセル技術を伝える

当社ではシームレスカプセルによって各地域の社会課題を解決すべく、海外で開催される展示会にも積極的に参加しております。近年のコロナ禍の影響で海外の展示会への参加を見合わせていましたが、2021年度はスイス ジュネーブで開催された「Vitafoods Europe 2021」に出展。耐酸性プロバイオカプセルや化粧品カプセルを紹介しました。既にプロバイオ製品の製造販売を展開している来場者からも、当社のシームレスカプセルについて新規性や可能性の高さを感じていただきました。



機能性素材

当社は長年の生薬研究のノウハウを活用し、独自に研究を重ねてきた「ローズヒップ」「サラシア」「カシス」といった機能性素材を提供しており、医薬品や化粧品、食品等で採用されています。こうした機能性素材や特許を多数所有することで、素材販売企業として確固たる地位を築いています。



素材研究を重ねることで実現した「機能性表示が可能な素材」

ローズヒップ



ローズヒップエキスとは？

- ① ローズヒップの種子を含む丸ごと果実から抽出したエキス
- ② 脂肪の代謝を促進し、体脂肪を低減する
機能性関与成分はローズヒップ由来ティロロサイド (特許4229942号)

ローズヒップエキスの特長

- ① 植物エキス特有の苦み・しびみが少なく、応用商品の味に影響しにくい
- ② 水溶性の粉末エキス
- ③ 少量で機能を発揮(100mg/日, ティロロサイドとして0.1mg)

素材の調達から製造まで一貫した独自の管理体制を構築



■GMP認定工場で製造

独自素材を用いた製品は、GMP認定を受けた工場のみで製造しています。GMPは安全且つ一定の品質を維持した製品製造を続けるためのシステムで、医薬品レベルの高い安全性と品質を保証しています。



■原料は現地で確認

その土地の気候風土が、大きく影響を及ぼすため、当社では生産地を視察し、その生育状況を確認。また、品質を一定に保つため厳しく管理しています。



■第三者認証を取得

当社では、公益財団法人 日本健康・栄養食品協会の安全性自主点検認証を2011年から取得しています。この認証を受け、さらなる安全性の向上を図り、広くお客さまの健康増進に寄与してまいります。

ローズヒップエキス採用製品 (例)

BtoB事業



ヘルスエイド®ローズヒップ



BMIが高め※の方向けの機能性表示マヨネーズタイプ調味料「キュービー フィット」(キュービー)
※:BMI値が25以上30未満を指します。



加工わさび初の機能性表示食品「肉用ざざみわさび」(金印物産)

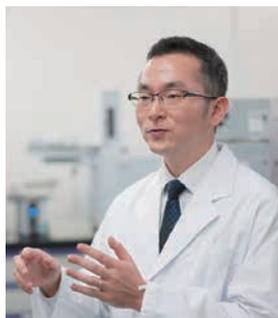


ダイエットをサポートする機能性表示ドリンク「FBドリンクR」(TBC)



白米のおともが機能性表示食品に「ローズヒップなめ茸」(高見澤)

Voice



製品化への努力が生み出したローズヒップ由来ティリロサイドの多様性

ヘルスケア事業本部 ヘルスケア研究開発部 薬剤師 長友 暁史

当社では1990年代の後半から、長年培ってきた植物由来成分の研究ノウハウを「生活習慣病」の解決に活かせないかと研究を進めてまいりました。そこで出会ったのがローズヒップに含まれる「ティリロサイド」というポリフェノールの一種で、ヒト臨床試験においても体脂肪を減らす機能を確認しました。さらに、ローズヒップエキスの水溶化にも成功して、安定した品質で提供が可能になりました。現在は体脂肪を減らす機能を付加したローズヒップ由来ティリロサイドの配合飲料や食品が数多く販売されています。このようにローズヒップをはじめとして、植物にはまだ多くの可能性が秘められていると考えており、今後も多様かつ急速に変化していく未来の食生活に対応した魅力的な成分を発見してまいります。

植物由来成分の研究を重ねて

サラシア



サラシアとは？

サラシアエキスはインドやスリランカ等の熱帯地域に自生するデチンムル科サラシア属の植物が基原で、食後血糖値の上昇をゆるやかにします。
機能性関与成分は **サラシア由来サラシノール**です。



学会発表や安全性のデータも豊富

当社は生薬研究のパイオニアメーカーとして、有効性や安全性だけでなく、『医薬品との飲み合わせ』にも注目して鋭意研究を続けております。

サラシアエキス採用製品 (例)



ヘルスイド®サラシア

BtoB事業

サラシアエキス配合のチョコレートが機能性表示食品に
SALA CHOCO
(サロンドロワイヤル)



カシス



カシスとは？

直径1cm程度で、濃紫色の丸い果実をつけますが、その果実は、ポリフェノールの一種であるアントシアニンを豊富に含み、その他には、ビタミンC、ビタミンE、マグネシウム、鉄分等のミネラル類も多く含むといわれています。
機能性関与成分は **カシスアントシアニン**です。



カシスエキスの特長

ニュージーランド産のカシス果実から抽出した、賦形剤を含まない100%のエキスです。カシスに特長的なルチノシド配糖体2種を含む4種のアントシアニンの総量を規格化しています。

カシスエキス採用製品 (例)



ヘルスイド®カシスアイ®

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス



当社は国内外のステークホルダーの皆さまの期待に応えるため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要課題のひとつと位置づけています。事業の継続と企業価値向上の実現を目指し、客観性と透明性をもった経営体制を構築しています。

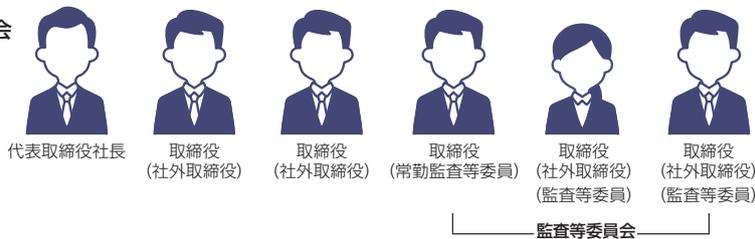
■ 基本的な考え方

当社は、株主、取引先、社員、社会等すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、長期にわたる成長と企業価値の最大化を使命であると認識しております。その実践のためにコーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要課題のひとつと位置付けて、経営の透明性向上と、公平かつ迅速な意思決定を伴う経営システムの維持及び経営監視機能

の強化を目指しております。なお、当社のコーポレートガバナンスに関する基本方針は、以下の当社ホームページに掲載しております。

<https://www.jintan.co.jp/corp/ir/>

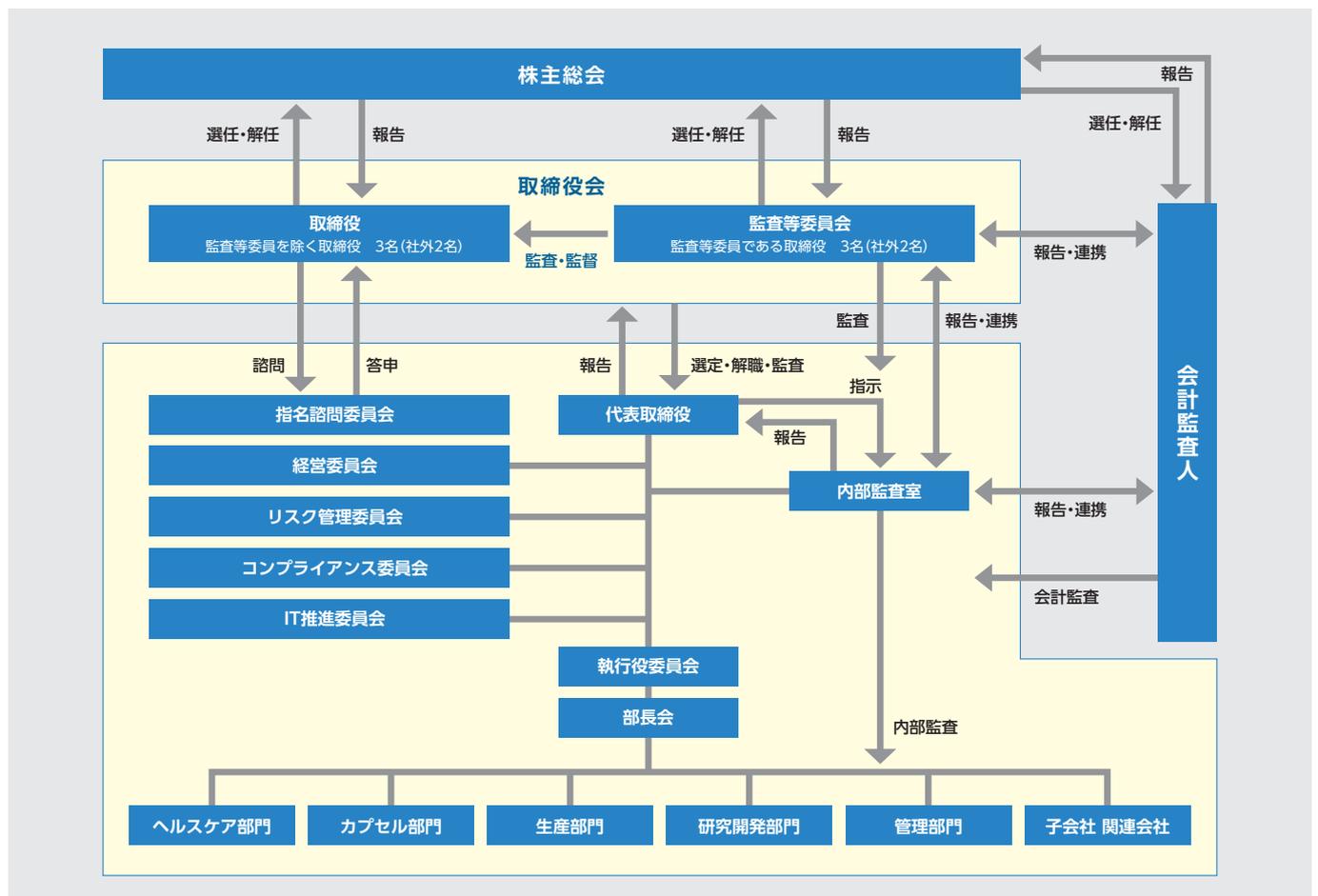
■ 取締役会



■ 機関構成・組織運営に係る事項

組織形態	監査等委員会設置会社
取締役関係	
定款上の取締役の員数	員数の上限を定めていない
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	6名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	4名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	4名

■ 体制図



コーポレートデータ

会社概要

商号	森下仁丹株式会社 MORISHITA JINTAN CO., LTD.
創業	1893年(明治26年)2月
設立	1936年(昭和11年)11月
資本金	35億3,740万円
証券コード	4524(東証スタンダード市場)
代表	代表取締役社長 森下雄司
従業員数	連結348名、単体333名(2022年3月31日現在)
売上高	連結9,563百万円、 単体9,580百万円(2022年3月期)
主な事業	医薬品、医薬部外品、医療機器、化粧品、食品及び 雑貨等の製造販売
URL	https://www.jintan.co.jp/

役員 (2022年7月1日現在)	
代表取締役社長	森下 雄司
取締役 (社外取締役)	末川 久幸
取締役 (社外取締役)	檜山 敦
取締役 (常勤監査等委員)	光永 健治
取締役(社外取締役) (監査等委員)	石原 真弓
取締役(社外取締役) (監査等委員)	石黒 訓
常務執行役員	石田 英嗣
執行役員	地主 紀之
執行役員	吉田 秀章

ネットワーク 事業所及び工場

本社	大阪市中央区玉造一丁目2番40号 電話(06)6761-1131(代表)
大阪テクノセンター	大阪府枚方市津田山手二丁目11番1号 電話(072)800-1040
滋賀工場	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪960番地12 電話(0749)48-7370
東京オフィス	東京都千代田区神田富山町10番地2 アセンド神田ビル6F 電話(03)6206-8138

株式の状況 (2022年3月31日現在)	
発行可能株式総数	9,600,000株
発行済株式の総数	4,150,000株
株主数	5,373名

大株主の状況 (2022年3月31日現在)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社森下泰山	1,095	26.9
ロート製薬株式会社	355	8.7
公益財団法人森下仁丹奨学会	211	5.2
株式会社三菱UFJ銀行	132	3.2
日本生命保険相互会社	111	2.7
株式会社ラクサン	106	2.6
株式会社徳島大正銀行	88	2.2
三菱UFJ信託銀行株式会社	88	2.2
森下仁丹取引先持株会	53	1.3
ピップ株式会社	43	1.1



(注) 当社は、自己株式71,263株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率については、自己株式を控除して算出しております。



森下仁丹